

平成 29 年 3 月 吉日
船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
統括校長 加 藤 敏 久
学校関係者評価委員会事務局

平成 28 年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 生徒の『進路指導』について

- (1) キャリア教育の年間計画を見直し、系統のかつ継続的な計画を立案して実践した結果、学校だより、学年だより、ホームページなどの効果もあり、学校関係者評価保護者用アンケートの「進路指導（キャリア教育）について」の 4 項目すべてで昨年度よりも評価が上がった。しかし、生徒用アンケートでは、ほぼ横ばいであった。要因としては、1 年生の総合的な学習の時間（キャリア学習）開始前にアンケートがあり、「分からない」という回答が増えたこともあげられる。
- (2) 生徒用アンケートに関しては、全体的に横ばいの中、2 年生だけは 3 項目すべてで昨年度よりも高い評価となった。キャリア教育の系統性の定着と次年度（3 年生）を意識した教育相談や広報活動の成果であると考えられる。

2 保護者の「学力」について

- (1) 校内の研究テーマを「主体的・協働的に学習に取り組む児童・生徒の育成」として、研究主任を中心に、学舎の小学校とも共同して授業改善を進めてきた。その結果、学校関係者評価保護者用アンケートの「子どもたちにとって分かりやすい授業をしている」「授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の 2 項目で、昨年度よりも肯定的な評価がそれぞれ約 5 % 上昇し、75 % となった。
- (2) 生徒用アンケートの「授業の内容は、よく理解できる」の項目においても肯定的な評価が 87 % と高い結果となった。研究による授業改善を進める中で、教員主導の一方的な授業から、ペアワークや話し合い活動、教え合い活動、体験的な活動などを取り入れた授業が主流となったことで、生徒の授業への意欲が高まり、授業が楽しいと感じている成果である。また、その授業の様子や取組をホームページや学校だより、研究だより、保護者会などにより公表していることが保護者の評価につながった。

3 世田谷 9 年教育の『学び舎』の活動について

- (1) 学校関係者評価保護者用アンケートの『学び舎』に関する 3 項目ともに肯定的な評価が 5 % 以上上昇しており、特に、『『学び舎』による小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の項目では、「分からない」という回答が 5 % 減り、肯定的な評価も 79 % という結果になった。小学校保護者へのプレゼンテーションのほか、あいさつキャンペーンにおける交流や世田谷子ども駅伝への学び舎チームとしての出場などが定着してきた成果である。
- (2) 学び舎の日の取組を、世田谷マネジメントスタンダード「世田谷 9 年教育」の理念を踏まえ、児童・生徒の学力を高めるために、学び舎の小学校と連携しながら「授業改善等への取組」と明確にした。